

天地人

1881 明治

おさしな

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
角生やす如き波頭や冬の月	寒月や身守り猿の守る町	大雪や湯治の合に湯気の塔	玉蹴りの缶は置いてけぼりに冬	名人は舟傾けて海鼠突く	鞍は山の暮らしの聖女の手	冬の月送り狼には任せず	谷なきものに守られ月凍ゆる	スズイ蟹メスは吊り目で卵持つ	一個づつ風味異なる蜜柑かな

つゆ

はとう

いんりふ

しんがれがたまり場にふたつの月の光が一匹の

大子

あふみこ

南柯句会

選句用紙

選者名

山崎 所彦

特	6 科	5 科	4	3	2	1
月の冴ゆ弥勒半跏の指の先	冬路鳥の首湾曲に佇めり	背伸びして星は聖樹のこっぺんに	指と指融れて遠くに冬の月	仕事終へ秋を見送る 二番線	食ばかりのケーキ聖徳の夜半勤王	海鳴りさなむめなむめて冬の月

選句用紙

選者名 横田清史

特	6	5	4	3	2	1
金継ぎのコーヒークップ冬の月	冬日照る神戸の沖は銀の盆	ひと仕事終ふ職人の白い息	釣人の丸き背中や夕なうらら	待ち人と仕事終わりの冬の月	冬天に湯気を曲豆が湯立の儀	寒月や身代り猿まの甲る町

選句用紙

選者名 富野 香衣

特	6	5	4	3	2	1
月は天に凍えて日本国憲法	宮跡のピニクテニトに冬の月	指と指触れて遠くに冬の月	赤子ごとくるむコートの檸檬色	日めくりを一度に破る十二月	海鳴りをなだめなだめて冬の月	容なきものに守られ月凍る

選句用紙

選者名

に 陽

特	6	5	4	3	2	1
大雪 ^{たいせつ} や湯治 ^{たうぢ} の谷に湯気の塔	バスを待つ人のあひだに寒雀	並 ^{はなは} るコチュジャン街中華の聖夜	虫 ^{むし} 跡りの虫は置いてけぼりに冬	冬 ^{ふゆ} こらら弾むボールの拍子抜け	着 ^き ぶくれて妄想族の母娘	北風に揺れるカーテン猫覗 ^{のぞ} く

R4
12/14
南柯

選句用紙

選者名 平 草

1	冬の月詠み合かうづの句碑をうす
2	待ち人と仕事終りの夕の月
3	冬晴れやあをぎ ^{ひとこ} 単衣の遠の山
4	故郷を離る暇を一夜と終りの夜と
5	運命にまた生かされて年の暮
6	食ひかけのケーキ聖夜の夜勤室
特	クリスマススイズ素うどんの葛心刻む

選句用紙

選者名

砂布金爺 すなふせんじい

特	6	5	4	3	2	1
	地は凍え土星に六十二個の月	白山に靈魂眠る冬の月	逝きし子の文机に鉢月冴ゆる	冬晴れやあをき單衣の遠の山	指と指触れて遠くに冬の月	驅け戻る予は草の實に愛されて

選句用紙

選者名 宮本 三郎

1	缶跡 ^{たけ} り ^り は雪 ^{ゆき} に ^に け ^け の冬 ^{ふゆ}
2	冴 ^さ ゆる月 ^{つき} ユ ^ユ コ ^コ 河 ^が を ^を 下 ^{くだ} り ^り を ^を り
3	月 ^{つき} 冴 ^さ ゆる人 ^{ひと} ニ ^ニ そ ^そ 恋 ^{こひ} し無 ^な 人 ^{ひと} バ ^バ ス
4	天 ^{てん} 井 ^{けい} に ^に 穴 ^{あな} 困 ^{くわん} 々 ^々 ア ^ア ー ^ー ケ ^ケ ー ^ー ド
5	ズ ^ズ ワ ^ワ イ ^イ 蟹 ^{かに} メ ^メ ス ^ス は ^は 吊 ^た り ^り 目 ^め で ^で 印 ^{いん} 持 ^ぢ フ
6	地 ^ち は ^は 凍 ^こ え ^え 土 ^{つち} 生 ^{せい} に ^に ハ ^ハ ナ ^ナ 二 ^二 個 ^こ の ^の 月 ^{つき}
特	ク ^ク リ ^リ ヌ ^ヌ ヌ ^ヌ イ ^イ ブ ^ブ 素 ^す う ^う ど ^ど ん ^ん の ^の サ ^サ サ ^サ 刻 ^{こく} む

選句用紙

選者名

米田よし

特	6	5	4	3	2	1
飴色の灯り点滅一葉己心	地は凍え土星に六十二個の月	年 ^{とし} 齡 ^{れい} 重ね肺まで届く冬の月	冬晴れやあさき単 ^{ひと} 衣 ^え の遠の山	缶蹴りの缶は置いてけぼりの冬	赤だしの冬 ^{ふゆ} 菜 ^な 味噌汁愛でにけり	金継ぎのコーヒークップ冬の月

選句用紙

選者名 二 晃

10	9	8	特	6	5	4	3	2	1
			赤子こくくるむフートの檸檬色	スカート <small>の</small> 裾から流れこむ師走	いっと見る管よの記載無き通帳	冬の月送り狼にはなれず	クリスマススプーが素うどんの菊心刻む	漂流の旅の傘舞 <small>い</small> や枯葉舞 <small>い</small>	海鳴りをなためなためて冬の月

選句用紙

選者名 白井桃紅

1	スーパ―に広瀬香美の冬が来る
2	薪窯の煙の重さ熊眠る
3	銭湯のフルーシ牛乳聖夜待つ
4	ズワイ蟹メスは吊り目で卵持つ
5	缶蹴りの缶は置いてけぼりの冬
6	冬路鳥の首湾曲に佇めり
特	食べかけのケーキ聖夜の夜勤室

選句用紙

選者名

しゃほん

特	6	5	4	3	2	1
<p>寒^{さん}月^{げつ}や ^{らうかんいん}落^{らく}款^{かん}印^{いん}の 著^し子^こ軸^{しよく}</p>	<p>飯^い宮^{みや}の 一^{いつ}夜^やの 宴^{えん}冬^{ふゆ}の月^{つき}</p>	<p>サ^サ新^{しん}山^{さん}窯^{やう}の ^ふ煙^{えん}の 重^{おも}さ 熊^{くま}眠^ねる</p>	<p>駈^かけ 戻^{もど}る 子^こは 草^{くさ}の 実^みに 愛^{あい}さ れて</p>	<p>赤^{あか}子^ここ とく る む フ ー ト の 檸檬^{れもん}色^{いろ}</p>	<p>寒^{さん}月^{げつ}や 身^みぬ り 猿^{さる}の 守^{まも}る 所^{ところ}</p>	<p>銭^{せん}湯^{とう}の フ ル ー ツ 午^{ひる}乳^に 聖^{せい}夜^や待^{まち}つ</p>

18 x 5
t h c

17
?
~~17~~
17
17

特	6	5	4	3	2	1
<p>日 12 号 は 十 ラ ト ラ の 間 戦 日</p>	<p>11月 を 引 く ド ラ ク イ ン の 月</p>	<p>一 つ つ の 間 なる 相</p>	<p>取 味 二 と 相 な い</p>	<p>相 な い</p>		

選句用紙

選者名

英光

冬晴れやあをき単衣の遠の山

肩組みて高歌放吟冬の月

年^{とし}齡^し重ね肺^{はい}まで届く冬の月

名人は毎傾けて海^{うみ}鼠^{ねずみ}突く

月凍^{こほ}る受話器震はし母^{はは}逝^{はな}きぬ

花びらの反^そりかえるほど石^{いし}路^ぢ日^ひ和^やり

月の冴^さゆ弥勒半跏^{にろくはんか}の指の先

肩組みて高歌放吟冬の月

選句用紙

選者名

上田秋霜

1	赤子ごとくるむフートの檸檬色
2	鞭 <small>あかぎん</small> は山の暮らしの聖女の手
3	クリスマスイブ素うどんの葱刻む
4	とれさうな青色釦クリスマス
5	花びらの反 <small>そ</small> りかえるほど石 <small>つ</small> 落 <small>おち</small> 日和 <small>ひより</small>
6	白山に靈魂眠る冬の月
特	鮎色の灯り点滅一葉ふ

選句用紙

選者名 近藤和卓

特	6	5	4	3	2	1
宮跡のセニクテントに冬の月	名人は舟傾けて海鼠、突く	月 冴えて ちらー手にあまるほど	軍靴 ^{あかがれ} は山の暮らしの聖女の手	冬 月や 虚空を見つむ 樹脂の太	駆け戻る子は草の実に愛されて	容 ^{かもち} なきものに守られ月凍る

選句用紙

選者名

関 洋子

特	6	5	4	3	2	1
金継ぎのコーヒークップ冬の月	駅ピアノショパンメドレー冬の月	冬の月送り狼にはなれず	クリスマススイズ素うどんの葱 ^{ねぎ} 刻む	凍 ^こ 月の ^{つき} 涙の小走り出国口	クロックにコートを開演五分前	仮り宮の一夜の宴冬の月

選句用紙

選者名 真一

1	冬の月送り狼にはなれず
2	クリスマスイズ素うどんの葱刻む
3	凍月の涙の小走り出 ^し 国口
4	食べがりのケーキ聖夜の夜勤室
5	月冴えてちちいぢにあまるほど
6	寒月や身代り狼の守る町
特	スカートの裾から流れ込む師走

選句用紙

選者名 山崎 たか

1	2	3	4	5	6	特
冬の月詠み分かつの句碑てらす	冬日や虚空を見つむ樹脂の穴	修行場の僧の瞑想心冬の日	駆け戻る子は草の実に愛さしこ	冬鷺の首湾曲に佇めり _{にたず}	食べかけのケーキ聖夜の夜勤室	聖樹前泣く子抑ゆる手を振る子

選句用紙

選者名

文蔵

1	冬晴れやあをさし単衣の遠の山
2	命の灯今消ゆ母よ冬の月
3	満たさめて朱塗りの杯の冬の月
4	肩組みて高歌放吟冬の月
5	胸の子とカートに二人小春かな
6	容 <small>ゆかり</small> なきものに守られ月凍る
特	産土は愛しきされど冬に発つ

選句用紙

選者名 福田 洗弥

特	6	5	4	3	2	1
冬麗の吐息すべらせハーマニカ	サ新窯の煙の重さ熊眠る	耶王樹前泣く子拗ねる子手を振る子	岳蹴りの岳は置いてけぼりに冬	月の冴ゆ弥勒半跏の指の先	進 ^{ほといせ} るコチュジャン街中華の聖夜	眉を引くドラッグストアの冬の月

選句用紙

選者名

岡本へちま

特	6	5	4	3	2	1
食べかけのケーキ聖夜の夜勤室	缶蹴りの缶は置いてけぼりに冬	一と仕事終ふ職人の白き息	冬紅葉鶉越といふ難所	白めくりを一度に破る十二月	薪室 ^{ふとこや} の煙の重さ熊眠る	クロークにコートを開演五分前

選句用紙

選者名

山本わこ

特	6	5	4	3	2	1
冬、霞の吐息すべらせハーモニカ	晩秋のメタセコイヤや焰 <small>ほたる</small> 立つ	とれそうな青色 <small>ほたる</small> 鉦 <small>かね</small> クリスマス	早 <small>あ</small> 稲 <small>や</small> 晩 <small>み</small> 生 <small>は</small> 時 <small>と</small> を <small>は</small> 操 <small>も</small> り秋起こし	駆け戻る子は草の実に愛されて	缶蹴りの缶は置いてけぼりに冬	花びらの反りかえるほど石路日 <small>ひ</small> 和 <small>や</small>